

坂本龍馬訪問の地「北畠顯家墓所」

阿倍野区王子町3-8

「阿部野古戦場」跡の次に「北畠顯家墓所」を訪れました。

尊王攘夷論が飛び交う時期で、南北朝期の頃、南朝側で忠義を尽くした人物を敬う傾向がある中、北畠顯家をはじめとして楠木正成、正行父子などが敬慕の対象となっていました。このとき龍馬は、北畠顯家の墓前で何を思ったのでしょうか？

龍馬は、後に湊川合戦で戦死した楠木正成墓所(神戸市中央区)にもお墓参りをしています。



北畠顯家墓所

坂本龍馬宿泊の地「三文字屋」跡

住吉区東粉浜3-28-3

檜垣清治による南朝史跡案内を終えた龍馬は、2月9日夕暮れ、「三文字屋」という旅館に投宿します。「三文字屋」は「摂津名所図会」や「住吉名所図会」に紹介されている有名な料亭旅館で、十返舎一九著の「東海道中膝栗毛 八編下」にも登場します。

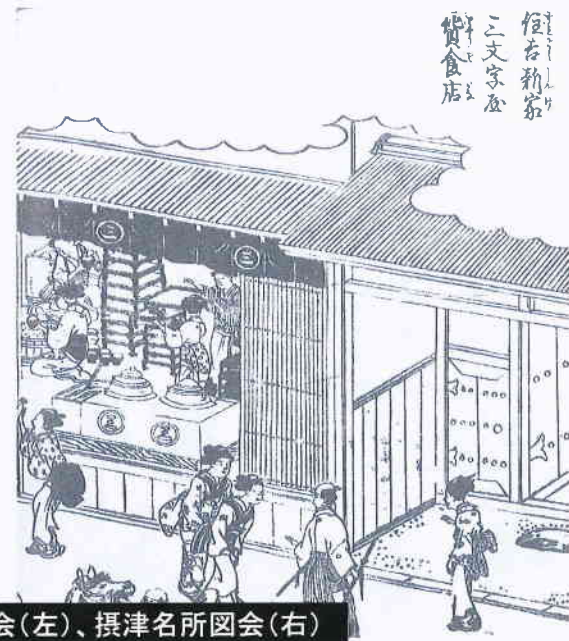
「三文字屋」の場所は、住吉大社のK氏のご教示で知ることができました。

「新家」が別名「新町」といわれていた場合、文久元年11月11日、龍馬が宿泊した旅館も「三文字屋」の可能性があると思われます。2月10日、望月清平、安岡覚之助らが龍馬の宿所「三文字屋」を訪れて会談(快談)したようです。龍馬は4~5日留まり、視察の為京都に向かい、そのあと2月29日、土佐へ帰藩しています。望月清平は望月亀弥太(龍馬と同じ勝海舟の門下生。池田屋事件で闘死。)の兄で、土佐勤王党の一員です。(生没年及び墓所は不詳)。

龍馬と望月清平は親しい間柄で、龍馬暗殺の直前まで、手紙のやり取りを数回行っており、最後の手紙は、「慶応3年10月18日付(龍馬の)京都寓居先について」の内容でした。



紀州街道沿いにあった三文字屋の跡地



「三文字屋」住吉名所図会(左)、摂津名所図会(右)

土佐藩住吉陣営跡

住吉区東粉浜2-3-26

幕末期、土佐藩が幕命により大坂の海岸警護のため築いた「土佐藩住吉陣営」は、文久元年（1861）5月に完成しました。約3.3ヘクタールもの広大なもので、陣営が建てられた場所は、紀州街道（現在、阪堺電気軌道阪堺線が走っている道路）の東沿いに正門を設け、南北約360m、東西約140mの長方形で、東側である上町台地西崖を除いた三方向に堀を巡らしていました。正門入ってすぐに陣営本殿があり、その奥である東隣に武芸所の文武館がありました。そのほか、厩舎、火薬庫、射撃場、操練所があり、約300名が常駐していたそうです。

土佐藩住吉陣営を示す石碑や案内板はありませんが、東粉浜小学校や東粉浜幼稚園付近がそれに該当します。



土佐藩住吉陣営跡

土佐藩住吉陣営跡ゆかりの遺跡 石垣

住吉区住吉2-3-15

慶応2年(1866)、土佐藩は住吉陣営の警備が免除となり、京都の警衛を命じられました。

住吉陣営の建物の主要部分は、慶応3年(1867)7月、京都北郊外白川村にある土佐藩邸内に設けられた土佐陸援隊(隊長:中岡慎太郎)本営に移築されました。

住吉陣営の石垣が、生根神社に一部移築されています。

今でも住吉陣営の遺構として見る事ができる唯一の場所です。



土佐藩住吉陣営の遺構(石垣)

土佐藩住吉陣営跡ゆかりの遺跡 常夜燈

住吉区住吉2-9-89

陣営の撤去により、慶応2年(1866)3月、陣営大部屋の者達が記念の常夜燈を造り、住吉大社に献納しています。



住吉大社に寄贈された常夜燈